

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2023年度 助成者)

作成日 2023年 9月 18日

氏名 (フリガナ)	新井理 (アライオサム)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2023年8月14日 (月) ~ 8月19日 (土)
大学名	新潟大学
学年	6年
<p>今回のプログラムでは大変多くを学ばせて頂きました。 中でも、私にとって大きな収穫となったことを3点以下に記載致します。</p> <p>まず、Dr.Shon の授業と JABSOM student との練習を通して、問診と Case Presentation の技術が格段に上達しました。</p> <p>小林先生も仰っていたように、Case Presentation のやり方を体系的に学ぶ機会というのはとても少なく、今回のプログラムのようにこれを体系的に学ぶ機会というのは非常に貴重なものでした。</p> <p>私はプログラムの最中には History Taking, Case Presentation, 双方共に自分自身の「型」を作っていくことに注力しました。</p> <p>最終日にはある程度自分なりのスタイルを確立し、自信を持って双方を行えるようになっていました。</p> <p>また、JABSOM student との問診練習では鑑別疾患が難しく、鑑別を考えながら問診内容を少しずつ変えていく臨機応変さも学ぶことができました。</p> <p>第二に、他大からの参加者との出会いも私に大きな影響を与えました。</p> <p>彼らは皆、とても高い能力と志を持っていて、 各々が各々のカラーを持っていました。</p> <p>発音がとても綺麗で英語に堪能な方、すでに USMLE Step1 を取得している方、研究に熱心に打ち込んでいた方、留学にかける熱意が凄まじく意志の強い方、医学の他にも打ち込んでいることがありとても多芸な方、 挙げるとキリがないほど様々な学生がいて彼らは皆キラキラしていました。</p> <p>他の大学の医学生に会う機会は私の住む新潟に居ると多くはなく、とても貴重な経験でした。</p> <p>事実、五日間という短い間でしたが、私は皆に考え方を教えられました。</p> <p>どこかモチベーションの下がっていた私は彼らによって奮い立てられました。</p> <p>このプログラムの参加者は皆、将来とても良いドクターとなり世界各地で活躍すると思います。今後どこかでまたみんなに会いたいと思っています。</p> <p>最後に、実際にアメリカで働いている先生、アメリカの医学生と話す機会があったことも大きな収穫と考えます。</p> <p>私は以前から漠然とアメリカ留学への憧れのようなものを持っていましたが、実際にアメリカの医療を見て、肌で感じたことはありませんでした。</p> <p>今回、アメリカの先生方から具体的なお話を伺い、留学への憧れが強くなりましたし、先生方とこの様な形で知り合えたこともとても貴重と考えます。</p> <p>今回のプログラムは五日間と短かったものの、私は大きく成長できたと考えています。</p> <p>プログラム参加に際し、参加へのハードルを下げた下さった日米医学交流財団の皆様へ感謝致します。</p>	